

心の花美術館 2周年特別企画

植物園 — 油彩・版画・陶 —

2016年 3月19日(土) — 4月17日(日) 10時—17時 火・水曜休館

4月9日(土) アーティストトーク&朗読と音楽演奏を行います(裏面をご覧ください)

ART空間を共有できる方々に支えられ、好きな作品たちを贅沢に展示してきました。

今回の展覧会のテーマ「植物園」は長い冬を耐えながらも営みを繰り返す、名も無き植物のように
今後もまちなかの小さな美術館として、微力ながら地道に発信し続ける存在でありたいと願っております。

心の花美術館 加藤泰子

入館料 一般：300円 シニア(70才以上)・身障者：200円 学生(小学生～高校生)：150円



■中村真美子 mamiko nakamura 「秋から冬へ13」 60×90cm ドライポイント

草は枯れてゆきとき、いったい何を思うのでしょうか。
定められた場所で、ときに雨や風にうたれ、雪に埋まり、なかい時間を重ねて、ただ一つの姿になってゆく。
その瞬間と空間とを切り取り、美しさを浮かび上がらせてみたい。そんな思いから枯れ草の風景を描いています。
雪と枯れ草が共同でつくる造形、風景は、思いもよらない美しさと、雪国で生まれ育った私はつよく心を惹かれます。
枯れ草の、豊かで静かな美しさをお伝えできればうれいします。

1972年 長野県上水内郡信濃町生まれ、長野市在住
2003年 版画家・故山下孝子氏に師事、版画を始める
2014年 信濃毎日新聞コラム 柳澤寿男「心をつなぐタクトの調べ」挿画担当(4月から1年間)
個展を作品発表の中心として活動



■坪内真弓 tsubouchi mayumi 「とりあえず一杯どうぞ」 @50×50×50cm 陶

大切な時間を 共にすごした人達が
ちょっとでも嬉しくなったり
ときめいたりクスッしたり…
いつの間にか仲間意識が生まれて
特別な時間になっている
「とりあえず、一杯どうぞ」

1972年 長野県上田市に生まれる
1999年 長野県上田市に窯窯を築窯
2008年 朝日陶芸展 長野美術展 知事賞
2009年 日展
2010年 SICF12 (スパイラル・東京)
2011年 長三賞常滑陶芸展
2015年 神戸ビエンナーレ・現代陶芸コンペティション



■原田正有 masatomo harada 「木の陰から」 81×110cm キャンバスに、油彩

光と陰の中に生成する自然の植物、それを緻密に描くのが目的ではない。より深く生命を描きたい。
モチーフから反映される、心のぬめりや感傷にも似た心象風景を表現できたらと願う。
自分でも捉え難い奥深い所に潜む何かを、時を逆流させ心にハレーションを起こさせていると評されたが
そんな瞬間に共鳴して頂ければと思う。

1968年 奈良に生まれる。
1995-99年 デュッセルドルフ芸術アカデミー絵画科 ヤン、ディベッククラス在籍
1997年 旅行奨学金(ニューヨーク、ボストン)
1998年 マイスターシューラー修得(ヤン、ディベッククラス)
1999年 ディプロム修得(アカデミーブリーフ)
2014年 帰国
2015年 個展『風景・心象・光と陰(ドイツ在住23年の軌跡)』ギャラリーKANI(東京)

心の花美術館

art collection museum

美術館専用駐車場2台あり(その他、近隣の有料Pをご利用下さい)

〒386-0012 長野県上田市中央2-7-23 TEL/FAX: 0268-22-0022

HP: 心の花美術館▶(検索)でご覧頂けます